福岡市環境審議会循環型社会構築部会議事録

１ 日 時　令和７年４月11日（金）16：00～17：30

２ 場 所　TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウエストルーム
（福岡市中央区天神１丁目４番１号）

３ 出席者(敬称略)
福岡市環境審議会循環型社会構築部会委員（７名）

	氏　名	役　職　等
部会長	小 出　秀 雄	西南学院大学 学術研究所長
	阿部　真之助	市議会議員
	大 森　一 馬	市議会議員
	平　　由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	中 山　裕 文	九州大学大学院 工学研究院 教授
	久留　百合子	リエゾンオフィス　代表取締役／消費生活アドバイザー
	森　　あやこ	市議会議員

４ 会議次第
１　開　会
２　議　題
・第２期実行計画に掲げる施策について
・目標値の見直しについて
３　閉　会

５ 議事録
【事務局】
（資料１について説明）

【委員】
13 ページのプラスチックリサイクルの推進について、単に分別してくださいと言ってもなかなか伝わらないので、分別して出したものがどういうものにリサイクルされるのか、市民に理解してもらうためにもしっかりと説明していただきたいというのが１つ。
10 ページの環境配慮型商品等の開発について、開発支援を進めるというのがよくわからない。福岡市は商業都市のため、あまり製造業というイメージがない。まずはどんな事業者がいるのか、事業者がいるとすればどのような支援をするのかなど、福岡市として具体的にどのようなことを考えているのかというのが１つ。
12 ページの地域集団回収について、高齢者も地域集団回収が実施されているのは分かっているがなかなか出せなかったり、雑がみの出し方について、どのように出していいのか理解していないところがあるため、もう少しきめ細かに実際の高齢者の意見を聞き、提案していただきたい。

【事務局】
　１点目のプラスチックについては、これまでモデル事業を実施し、回収したプラスチックを使用して一人一花運動の PR を行ったり、世界水泳のおもてなしに使っている。他都市の事例で言えば、北九州市の学校で児童の引き出しにプラスチックを使ったものがある。プラスチックごみの回収を促進するためにも、分別したプラスチックがどのように使われているのか、活用方法や見せ方についてしっかり検討していきたい。
　環境配慮型商品等については、事業系ファンドを活用した実証研究や社会システム研究があり、実証研究が上限 1,000 千万円、社会システム研究が上限 200 万円であるが、現在実施している事例でいうと大学からの提案で AI を活用した古紙の分別アプリの開発や、廃棄野菜を利用したベジートいうシートの販売を行っている企業が、ペットの餌等の開発を検討しており、今後の実装に向けて取組んでいる。

【委員】
　そのような情報は自分たちには入ってきていない。

【部会長】
　自分は委員をしているので知っているが、委員をしていないとわからない。

【委員】
　逆にいうと、市民にも全く伝わっていないということ。もう少し PR された方が良いと思う。

【事務局】
　集団回収について、少子高齢化による担い手不足があるため、今後地域で出しやすい環境づくりをしっかり検討していき、実現した際にはしっかり周知した上で取組みにつなげたい。

【委員】
　4 ページの事業者と連携した代替素材等の普及・促進について、業者を拡大していくのか疑問に思った。今後公共施設にも広げていくのか。

【事務局】
　事業者と連携した回収だが、メーカーのパイロットから指名があり、現在市内の学校 15 校において、回収箱を置いている。
　また、化粧品会社のユニリーバやファンケルについては、市有施設や学校ではなく自店舗で回収している。そういった回収をしているというのを福岡市も広報という側面から発信させていただいている。それからいわゆるプチプチと言われるものについては、昨年度から、公共施設のボックスで回収しており、そういった取組みについて少しずつ範囲を広げながら、解消したいという事業者が出てきたら、環境局としても、新しく関わっていきたい。

【委員】
　協力してくれる事業者が手を挙げやすいように、業者への案内と、あわせて市民に対しての広報もしっかり行うようお願いしたい。
　5 ページの事業者へのグリーン購入の普及・促進の実績について、昨年の３月にグリーン購入ガイドラインの改定を行ったからわざわざここ書いてあるのかもしれないが、最新の数字はあるのか。

【事務局】
　最新の数字については把握していないため、把握ができ次第改めて共有させていただく。

【委員】
　グリーン購入ガイドラインだけではなかなか進まないことから、意識を上げるためにも公共施設も含めてしっかりと取組んでいくように、また数を増やしていくために声かけをお願いしたい。
　また、6ページのフードロスの削減型の自販機導入について進捗状況を尋ねる。

【事務局】
　フードロス削減型自販機については、今後、設置する意向を持つ事業者を公募していく。現在は設置されていない。

【委員】
　どのぐらい有効性があると考えているのか。また、自販機設置において補助はあるのか。

【事務局】
　補助といった市からの予算は計上しておらず、食品販売事業者、自販機を設置する場所の提供者、自販機事業者を福岡市で公募し、マッチング支援や広報的な支援を行うもの。

【委員】
　自動販売機ということで、保冷機能や保温機能といった点など、懸念する点があるため、状態は見ていきたいと思うが、夜中でも購入できる点は便利であり、衛生面や安全面、エネルギーの排出状況等、検討していただきたい。
　14 ページのコミュニティガーデンの支援について、専門人材の育成とあるが、先日福岡市で開催したフラワーショー等に関わっている方と連携があるのか、また商業施設のオープンスペースを活用した場所や町中に広がっていくと考えていいのか。

【事務局】
　令和６年度の取組みとして、NPO 法人と連携し３ヶ所でコミュニティガーデンの開設行った。そのうち１ヶ所が大丸のパサージュ広場。それから博多区にあるホテルウィングインターナショナル、子ども食堂で開設している。大丸では、社員食堂からでてくる食品残渣を使って堆肥化し、コミュニティガーデンの中にいれて、野菜を育てており、皆さんそれぞれに工夫して取組んでいただいている。今後、地域の核となる会社、企業を中心とした取組みとして、こういったコミュニティガーデンを広げていくため、まず３ヶ所モデル的に実施し、市内に広げていただければと考えている。

【委員】
　ガーデンというものだから花だけではなくて、野菜も含め、広めていただけたらと思う。

【事務局】
　福岡市の取組みと直接関係はないが、ホテルで出した朝食等の残渣を堆肥化し、野菜を育て、その野菜をまた朝食等に使うといった取組みがあるため、そういったイメージで取組めたらと考えている。
　また人材育成については、福岡市の外郭団体である環境財団では元々堆肥化の取り組みや学校への出前講座等を実施するなど関連性もあり、今後こういったコミュニティガーデンの取り組みを広げていく上でアドバイスもできる人材を財団の中で育成していくということで記載している。

【委員】
　市民はホテルをなかなか活用しないと思うため、市民が自らできるような形で広げていっ

てほしい。
15 ページ廃食用油について、集めたものはきちんとリサイクルされ、活用されてると思うが、活用先には余裕があると考えてよいか。

【事務局】
家庭から出るこの廃食油については、大体 1 割程度が資源化されており、9 割程は廃棄されている。回収拠点を増やしながら、回収の量も増やしていく必要があると考えている。量の目標はなかなか申し上げにくいが、これ以上回収量が集まっても当面の間は、資源化という点では問題ないと考えている。

【委員】
市民は知らないことの方が多いので、扱いが大変だとは思うが、広げていただければと思う。
17 ページのリユースの推進について、イベントが委員会の資料では年に 1 回だったような気がするが、市民の力も活用するなどしてもっと増やせないか。

【事務局】
年に 1 回というわけではないが、回数に関しては今後検討していく。

【委員】
メルカリ等はあるが、市が率先してやっていけたらいいと思う。
18 ページの小学校における食品ロスの取り組みについて、昔も実施していたと思うが、今回はどういう形で進めるのか。

【事務局】
昨年度から取組みを行っているもので、１つは小学校に出向き、食品ロスの現状を伝える取組みとあわせて、各学校でコンポストに取組んでいる。それから、実際に出た食品残渣を持って行っているメタン化施設を子供達の見学先とするなど、一連の取り組みとして行っており、令和６年度は６校で実施し、今年度は８校で実施予定である。

【委員】
堆肥化は、教育委員会と協力し、子供たちが野菜を作るなどの体験を実践してほしい。
25 ページの新型コロナウイルス感染症対策について、1 期に記載されていたものが 2 期で削除されている。廃棄されるワクチンについて、医療機関の産業廃棄物としての廃棄の仕方の問題が含まれているのか。

【事務局】
1 期は安定的な廃棄物の処理体制を確保することという意味で記載している。

【委員】
ワクチンは遺伝子製剤のため、廃棄の仕方が異なる。医療機関がきちんと処理しなければならないが、今まで市の事業としてやる必要があったと思う。

【事務局】
廃棄物である以上は当然含まれているという認識である。

【委員】
ショート動画を取り入れるということで、とても良いと思う。ぜひ生ごみ堆肥化も入れて

ほしい。
　今後の中長期的なところで、高齢化がごみの廃棄物に関しては、計画することが大事だと思う。今日の会議に際してドイツの調査を調べてきたが、まずは高齢者の廃棄物排出行動の詳細の研究を行い、それから高齢者向けのサービスを低コストで提供できる技術開発等の施策を行うことがとても大事である。さらに、地域ごとの特性に応じた廃棄物管理の柔軟な対応が求められることから、地域ごとの状況、例えば高齢化地区の美和台地区と、アイランドシティ、香住ヶ丘は全然違うので、そういった特性についての研究もとれるので、都市部と高齢化地区に応じたものを設計することが大事とされている。
　そういった意味でも、大掛かりに回収するものと、地方分散型という 2 種類の方向性が出てくると思うので、できれば地域で特性がある地域で技術開発や、共助型にするトライアルをしてもらい、採用できそうなスキームが抽出されていけば、すごく役立つと思った。

【委員】
　全体的な話としては、すごく手広くいろんな計画が立てられて感心するが、指標の評価の見直しが必要な点がいくつかあると思う。様々なコンテンツがあるが、例えばバイオマスプラスチックごみ袋 1,000 枚加えるとか、ごみ出しのガイドブックを何部配るといったようなサービス提供数が成果指標になってい。本当はごみがどれだけ減ったか、そのごみ出しに関係するエネルギーや CO2 がどれだけ減ったかという成果指標が重要であり、そうなっていないものがあるため、計画とその進捗の管理の数字が対応できるような仕組みを少し考えていただければと思う。
　もう 1 つは、環境局だけで出来ることは限られており、あるいは環境局だけでやろうとするとそんなに成果が上がらないところ、経済観光文化局や教育委員会と一緒にやる必要がある。例えば、環境局が持っているコンテンツを小学生に与えるというやり方をすると失敗する。教育というのは、最初にどういう人材育成をするか、小学生だったらこういうことを理解してもらおうとか、こういう説明ができるような小学生になってもらうという目標があって、それに対してどういうコンテンツを与えていけばいいかというのは、教育委員会の職員がプロなので、一緒にやるような連携体制が必要だと思う。環境局と他部署との協力体制、をどのように取り、各計画を実効性があるものにするかを考えていただければと思う。

【委員】
　何を目指すべきかという目標設定をしないと。例えば、「エシカル消費」は言葉だけ独り歩きをして、市の職員は知っているが市民はほとんど知らない。目的意識としてビジョンをしっかり掲げておかないと市民はついてこないと思う。
　サステナブルファッションに関して、例えば幼稚園の制服や子供服等、少しでもお金にかわればいいが、ボランティアで譲るのは考えられないという感覚の人が多い。市民の意識を喚起するというか、知り尽くさないといけないと思う。

【部会長】
　施策としては必要だと思うが、言葉の使い方も含めてどうやっていくか。需要がないと頓挫してしまうので、具体的に考えるべきと思う。

【事務局】
　次の議題に入る前に、本日欠席の委員よりいただいた意見を紹介させていただく。意見としては、今回提示された計画の内容が全体的に抽象的な表現となっている。例えば、評価という記載があるが、実際第 1 期のどの項目をどのように強化していくのか、具体的な表現があればもっとよいのではないか。
また、令和５年度の実績値が対象とする事業者数や市民の数は何割に想定するのかという記載があれば、現状の進捗状況や次期計画での活動目標の提示というものがやりやすくなるん

じゃないかというような意見をいただいている。こちらについては、どの部分を強化し、具体的にどうしていくという表現の仕方を、しっかり工夫していきたいと考えている。
　また実績に対する目標や、活動目標の示し方については、施策ごとに記載しづらい部分もあるが、推進状況や達成状況についてはしっかり管理をしていくなかで、示していく方法について、改めて相談をさせていただきたいと考えている。

【事務局】
（資料２について説明）

【部会長】
　家庭系に比べて、事業系ごみの減量が物足りないと個人的には思う。

【事務局】
　事業系ごみについては、令和２年 10 月に古紙の分別が始まり、分別が促進されてきたものと考えているが、未だ資源化可能な古紙があるため、取り組みとして今回掲げさせていただいているのが古紙の資源化の推進、それからメタン化施設を始めとした食品廃棄物再資源化施設への導入を増やすことである。例えば食品廃棄物に関していうと、現在施設の持つスペックの約 2 割程度の稼働率となっており、古紙もだが、各排出事業所において分けるという手間が障壁になっている。そういった障壁を取り除いて、古紙や食品廃棄物の再資源化施設の最終的な目標としては八割程度ということで示している。

【部会長】
　ポテンシャルが非常に高い部分ではあるので、ここを使って何とか原単位を 1 減らすのを目指すということ。

【委員】
　指標の数値は、理由づけが大事だと思う。例えばだが、環境配慮型商品を購入する市民の割合の向上を指標にしたとして、詰め替えでない方が安ければ市民は安いほうを買うはず。

【部会長】
　選択肢が色々とあるなかで、90 パーセントはどうかと思うが、下げるわけにはいかないと思う。

【事務局】
　指標で掲げているのは、このぐらいのパーセントになればというような、目標として掲げているものや、今後の具体的なプラスチックごみ焼却量の削減見込みなど、弾き出せるものと考えている。
　今回ご指摘いただいた詰め替え品等の指標については、具体的に何グラムということではなく、割合で出す以外ないためパーセンテージで示しているところ。
　第 2 期実行計画の指標については、事務的になるかもしれないが、数値目標をどうするかというところはあるが、先ほど説明があったとおり、現時点で数値がクリアできてないものについては、据え置きということで対応させていただいてるというのが現状である。
　今後については、項目も含め、次期計画の中で検討ができればと考えている。

【委員】
　詰め替え用が高いときもあるが、実際にごみに出すっていうときを考えたときに、かさばり方などから考えて詰め替え用は小さくなるため、ごみ袋の節約になる。委員が言われることもわかるが、やはりそこが意識啓発。ごみになるときにどうなるか、それを焼却するとか、

いろんなことの知識があれば、少し高くてもやっぱりこっちを選ぼうかなという気になる。

【委員】
　プラスチックを燃やしたらこうなるとか、そういう意識を植えつけるのは役所の仕事だと思う。そういう詰め替え用の商品を販売している業界に協力要請するのも１つの手と思う。結果的にプラスチックを燃やすが、ボトルのプラスチックよりは量が少なく、薄い。そのあたりをショート動画など、もっと市民に啓発すべきだ。

【委員】
　目標は大事と思う。
　再生品の購入が 30 パーセントという数値はどうかと思う。再生品がそんなにあるのかと思う。こういう製品を作ってほしいとか、それから PR してくださいなど、事業者としっかり話し合っていく必要がある。

【委員】
　先ほど資料１のときに、委員が言われていたが、実績やその評価が載ってるもの、載っていないものがある。これに繋がる資料２のこの目標値とか、こういうのに繋がるための公共的なものが、わかりづらく、経年がどうだったらこうなってるとか、社会状況などが資料としてあったらいいと思った。
　また、未達成のため据え置きとか、７年度から削減というだけでは、わかりづらい。

【部会長】
　見直しや据え置きの部分は、最初に私が見たときはもうその言葉しか書いてなくて、これだとわかりにくいっていうことで、「未達成のため」など、つけ足してあるが、今日の前半のアイデア出しと、後半のこの指標のところが確かにまだマッチしてないので、そこのところは、もちろんマッチさせる必要がある。

【委員】
　数値目標のグラフは、人口が増えているにもかかわらず、ごみが減っており、デカップリングが達成されている状況だと思う。こういうのは市民の方もわかると思うのが、デカップリングの話をするときは、人口だけではなく、経済指標、例えば福岡市でいうと、市内総生産額が伸びていて、経済がすごく活性化しているが、事業系ごみは減っていますというデータをこの横につけて欲しい。9 ページに市内総生産のデータもあるため、将来推計ができるかどうかは別として、過去の値は多分出せると思うので、これまでの福岡の経済発展の状況とともに、事業系ごみの関係はひと目でわかると思う。
　それともう１つは、ごみ袋へのバイオマスプラスチックの導入について、すごく大事なことだと思う。ごみを集めるごみ袋については、プラスチックで集めてプラスチックを燃やしていることになる。それをバイオマスに変えると、CO2 削減という意味では大事だと思う。その一方で、指標８のプラスチックの焼却量について、プラスチックの焼却がなぜだめなのかというと、プラスチックの水平リサイクルはもう一回プラスチックに戻しましょうという考え方と、もう１つは、燃やすと CO2 が出るからなのですけど、CO2 はバイオマスプラスチックにするとバイオマスからできているので、基本的には全部ゼロ、カーボンニュートラルになる。指標 11 の廃棄物処理における CO2 の削減目標というのがあり、そこの整合性がとれているか、もう１度確認していただきたい。
　リチウムイオン電池の混入量について、トンあたり 26 個と書いてあり、おそらく不燃物ではないかと思うが、もし可燃物込みだとすると、そんな量が入っているのかと思うので、データの確認していただきたい。
　最初の１ページのグラフについて、令和５年度までが実績値で令和６年度からが将来集計

の結果になるが、令和７年から令和８年に、将来推計がガクンと減っている。普通は将来的に徐々に上がっていくとか、徐々に減っていって一定割合で推移させることが多いと思うが、この理由を教えていただきたい。

【事務局】
１点目については、検討させていただきたいと思います。
バイオマスプラスチックの関係について、今現在、バイオマス配合ごみ袋は 25%配合になります。導入当初は、強度への懸念などもあり 25%としていた。今後については、強度には問題ないため、例えばその割合を増やすことや、枚数については現在、100万袋1000万枚を販売しているが、バイオマス素材もまだ潤沢とは言えないこと、費用としても約1.4倍通常のごみ袋よりかかっていることから、費用対効果も確認しながら、今後どうするかを考えていきたい。その量が増えた場合のCO2の換算については、指標への反映の仕方について検討していきたい。
リチウムイオン電池については、不燃ごみに含まれる量になる。
最後に令和８年度に将来推計が下がっていることについて、現在予定しているプラスチックごみの分別収集の効果を加味したものであり、一方で開始時期にもよるため令和８年度中にどの程度下がるか、あとは分別協力率が約５割を見込んで、それぐらいの量のプラスチックごみが減ると推計したものであり、協力率にも左右されるため、未確定ではないかと言われると思いますが、少しでも近づいていけるよう、頑張っていきたい。